

令和6年度 第5回

日南市教育委員会

会議録

令和6年7月25日(木) 午後4時から
日南市役所・別館2階会議室（会議室5）

- 1 会議の名称 令和6年度教育委員会 第5回会議（定例）
- 2 会議日時 令和6年7月25日（木）
午後4時00分から午後5時15まで
- 3 出欠確認
 - （1）出席委員 都甲政文 黒木由香、別府信一、八木真紀子、佐藤泰信
 - （2）事務局 教育部長兼学校教育課長
学校教育課学校教育担当監
生涯学習課長
生涯学習課国スポ・障スポ準備室室長補佐
学校教育課管理係長
学校教育課管理係主任主事
- 4 場所 日南市役所 別館2階会議室（会議室5）
- 5 傍聴者 1名
- 6 開会
【都甲教育長】
「それでは、令和6年度第5回日南市教育委員会定例会を始めさせていただきます。」
- 7 出席者及び傍聴者確認

【都甲教育長】
「出席者の確認をいたします。教育委員5名全員出席でございます。事務局の出席者の確認をお願いします。」

【鬼束部長】
「事務局は、全員出席です。」

【都甲教育長】
「本日傍聴の方は1名ですね。よろしくお願いします。」
- 8 活動報告
 - （1）教育長活動報告

【都甲教育長】

・6月25日、宮崎県道場少年剣道大会全国大会に出場する選手たちが表敬訪問してくれました。小学生中学生ですね。男女ですね。小学生は男子になりますかね、という訪問でした。

・それから7月1日の4時から、社会を明るくする運動であります、これ毎年ですね、総理大臣が人権週間に合わせてですね、そのメッセージを届けるということで、それをですね、今年は南郷中学校の生徒会長がメッセージ読んで、市長に手渡すというようなセレモニーがありました。

・7月3日に日南市の校長会やったんですけども、私が話したのは、8月には原爆とかありますので、平和に関する講話をしっかりとやってくれということ。それから8月に管理職試験があるんですね。教頭校長の。これについてですね、声かけとか。やはりしっかり次の管理職になる先生のためにいろいろ声をかけてくれて話をしました。あと、働き方改革いろいろやってますけども、やはり風通しの良い職場づくりが一番じゃないかということでですね、声を上げられる雰囲気にしてくれと。例えば、きついときにはきつい、助けて欲しいときは助けて欲しいというふうなことをお伝えしました。

・続いて同じ7月3日。来客に日南税務署とありますけど、税務署は7月なんですね移動が。所長さん以下担当の方来られて転出の挨拶をされました。税務署長さん、たった1年で、また東京に戻っていかれました。

・それから7月4日ですけども、これは日南商工会議所の会頭さんが代わられたものから、何人かでお見えになりました。

・7月5日にですね、オリンピックのバレーボール甲斐選手がですね、市長表敬訪問をしてくれました。市役所で大歓迎をしてですね、甲斐君来てくれまして、めったにない2メートルもある子なので、議長がびっくりしてました。予選リーグの試合が3試合あるんですけども、そのうち2試合をパブリックビューイングという形でですね、27日が多目的で対ドイツ、4時からですね。それから、7月31日が油津のYottenで8時から対アルゼンチンです。2試合やるとのことです。よく聞いたらですね、日本時間で4時といたら、現地は朝9時らしいですね。だから高校の試合みたいにですね、朝早く今6時に起きて、練習していると聞きました。

・それからですね10日、日南市生涯学習推進委員会。これは生涯学習事業についてですね、いろいろ進捗状況を説明しまして、そしてその委員の方々から意見をもらうという会です。

・そして7月12日は、南那珂の教科書採択の地区協議会。これで新しい中学校の教科書が決まりました。

・続いて7月16日飢肥小学校にですね、給食活動の視察に行かしていただいて、そのあと戻ってきてその教科書に関する臨時教育委員会を開かせていただきました。飢肥小はですね、栄養教諭の先生が一生懸命食育をやっているということで、非常に子供たちも楽しく給食をしてました。

それから7月18日19日は2日間かけて、校長の中間ミーティングやったんですけども、1人あたり20分ぐらいで。それぞれの校長ですね、やっぱり新しい校長も含めてしっかり学

校経営をしてもらってるんだということが確認できてですね、よかったです。また2学期以降もお願いしたところでした。

・それから18日の夕方からは、県民スポーツ祭の報告会があったんですけども、5月下旬の結団式に始まってですね、6月から競技が始まって、いろいろ分散開催なものですから、まだ実施されてない競技もあったんですけども、一区切りということですね。成績発表とかですね、おいしいもの食べながら、そしてアルコールもちょっと入れながらですね、1つ一区切りをし、また来年に向けてですね、頑張っていこうということで、盛り上がったところでした。

・7月20日土曜日、犬山の小学生が来てくれました。これ8年ぶりに来てくれたみたいで、9名来てくれてですね。日南は10名の子供たちがホスト役をやってくれたんですけども、大変暑かったんですけども、みなとまつりを見て、そして、の日飢肥を回って、最後は北郷でバーベキューしたってということでちょっと聞いたんですけども、暑さ心配だったからどうだったって聞いたら、無事に皆回っていったということを聞きました。

・それから7月22日ですね。渦上小学校に行ったんですけども、これ終業式に行きました。暑かったんですけども、体育館でですね、終業式やったんですけども、まあ暑かったです。30分でしたけど、がんがん業務用の扇風機回してですね。でもその中一生懸命話を聞いて。こちらの渦上小学校が野球が強くて、沖縄に行くらしいですね、交換で。その選手走行もして、よかったですね。

・それから24日、昨日からですね南保塾が始まってます。これは小学生対象に美術と図画工作ですね、やってますけども、昨日がエコバックそして今日が木工だったんですけども、非常に人気があって。小学校低学年に回ったらですね、コースターやったんすよ、杉の木でできた。お母さんたちが一生懸命作っちゃよと思ったら、お母さんたちもなんかもらっちゃみたいで、自分のを一生懸命作っちゃってですね、非常に夏の塾に関しては人気があったいいなと思ってます。

・それから昨日はですね、自治会連合会の総会に参加させてもらったんですが、非常にやっぱり自治会長さんもですね、前向きに取り組んでおられてですね。いろんな悩みもあるみたいですけども、いろいろ話を聞かせていただいて、参考になりました。

(2) 委員活動報告

【別府委員】

6月27日にオンラインの教育委員会の研究会議に参加させていただきました。

文化課のテーマが、私が参加したのが不登校児童生徒の問題についてだったんですけども、日南市の取り組みを発表させていただいて、各市町村の取り組みも伺いながら、学校に復帰できた嬉しい事例とかも聞くことができました。そこで1つちょっと気づいたのが、やっぱりその居場所とか施設の設置っていうのも大切だとは思うんですけど、それ以上にやっぱりそこで信頼できる大人の人たちと出会いことができるかというのが1つ

の鍵だなあと感じたところでした。日南市にもですね本当教育支援センターにも素敵な先生方がいらっしゃいますので、1人でもですね、多くの子供たちをまた救っていただきたいなと思ったところでした。

あと7月16日に、給食の試食会に参加いたしました。食べ残しを減らすために各先生方がいろんな工夫をされている風景だとか、あと子供たちの食事風景も見ることができて、大変貴重な時間でした。もう本当給食もとても美味しかったです。

あと7月の23日に共同募金運営委員会の理事会。翌日の24日に日本赤十字日南地区の理事会に行ってきました。こちらの方はまず事業実績報告と収支決算が行われたところでした。

【八木委員】

私も6月27日にオンラインの市町村教育委員会研究協議会に参加しました。

初めに文科省の人が行政説明されて、その中でいろいろな内容があったんですけど、やっぱり去年と同じで、教育委員会をしっかり運営して予算を獲得してくださいってことで、日南市も頑張りたいなと思いました。

あとはですね、いじめの重大事態が発生したときの訓練を必ずやって欲しいと言われたんですけど、やっていますかね。っていうことを強く言われてました。あとスクールロイヤーの設置。

あと令和5年の補正予算で、7年度のタブレットの買い替えの予算を獲得してくださいってことなんですけど、私ちょっとその辺よくわからないんですけど、そういう話をされてました。それとITCの教育が盛んになってますけど、全国の90%等のところがタブレットも家に持ち帰ってっていると。そんなにあるのかなと思ったんですけど、ネット環境がないってとことかどうされるのかなと思うんですけど、そういう報告がありました。

あと分科会の方は私も不登校について、ほとんどが不登校でしたね。6市町村の人で大体人口が5万人、日南と同じ規模の人で話し合いがありました。不登校の数が今全国で30万人。でそのうち指導を受けてない小学生が11.4万、約ですけど4000人ということで、かなりの方が。大人のひきこもりが全国で120万ですね。そのうち2割がその不登校から移行って言われてるので、その辺の繋がりどうなってるのかな。その辺の何ていうかな、繋がりをまだ研究までは文科省もまだいってないのかなと思うんですけど、そこがちょっと気になりました。その中でも大体同じようなことを各市町村やってるんですけども、群馬県の館林市は、オンラインフリースクールっていうのを委託事業でやってて、ちょっと覗いてみたんですけど、ちゃんと授業があってそれを無料で受けれるというそういう市町村もありました。やっぱりさっき別府委員も言われましたけど、心の安定する場所、入っているのはキーワードですよ。不登校の時はいろんなことがあるけど、一言では言えないですよ。どういうふうなことで不登校になるかと。だからやっぱり心の

安定する居場所作りってというのが大事ということで、日南市の場合も支援センターありますけど、学校内だと教室と行き来ができるということで、学校内でも結構力を入れてるところがありました。

その中で皆さんがすごい興味を引いたのが和歌山県の橋本市のことなんですけど、子育て世代支援包括センターというのがあって、もうお腹の中にいるところから途切れなく18歳までの子供たちを支援するということをやってまして。そこでそういういじめとかそういうこととか、全部こう担っているというか、もう本当妊婦期からもう、お母さん同士の繋がりを増やしていくとか。離乳食とかですね、親も大事ですので、そういうことをちゃんと関係づくりをやって、親がつながれる、そしてアナウンスがとても大事なので情報誌で届けるとかですね、教育のサポートとか、そして教育委員会だと高校まではなかなか見れないけれども必ず聞き取りをする。あの子はどうしてますかってそれが何になるかわからないけどっておっしゃられたんですけど、でも、小学校とか中学校のときの様子を、高校に伝えるって意味ではすごい大事ななということで、行われてるっていうので、どの教育委員さんも耳を傾けて聞いていました。

【佐藤委員】

1人学校訪問じゃないですけど、何校かさせていただいて、こっちで。吾田東小とですね、それから北郷小中と北郷保育所に行ってきたして、幼保小連携、それから不登校も少し、あとは発達支援をどんなふうについていうのをちょっと、話を聞かせていただいて、どこも本当一生懸命されていてですね、いろいろ工夫されてるんですけど、大体やっぱり人手が足りないということで。合同で、ちょっと子供たちの特性が異なるんですけども、やっぱり一緒に授業やったりして、それだと見る目が増えるし、また支出も増えるんで、そういうふうなことを工夫されたりとかしながらですね、やられていましたが、その特別な配慮が必要な子たちに関してはですね、福祉課の方が主催の地域自立支援協議会というのがあってこの前第2回目があったんですけど、市内に7ヶ所事業所があるんですけど、7ヶ所と、あとは愛泉会の先生方と、それから相談専門員がいる支援センターというのが、3ヶ所ぐらい、皆さんが集まるんですけどそこで出た話題もですね、発達支援が必要な子たちへのサポートで、不登校問題を少し解決するのに、お手伝いできるんじゃないかということが出てまして、本年度の活動の柱の1つで、そういった専門的な発達障害とか、そういった子たちへのサポート技術知識を、学校の方で不登校対策としても、なんか使っていただけないかなというのが結構出てまして、学校のさっき回ったところでもですね、やっぱりある程度の割合で、そういった支援が必要な子が、結局授業がわからない、面白くないって学校に来なくなるっていうこともあるんで、何かこううまく連携できないかなと。発達支援事業所というのは、ちゃんとした事業の1つに、保育所等訪問というのがあって、要請があればですね、出て行って、ちゃんとその分のお金もいただけるんですよ。だから、そんなんで、私が東小にいるときも、風の子さんとかに来ていただいてですね、

いろんな具体的なアドバイスをいただいたりしたので、なんか公立と民間って、私がいた当時はですね、なかなかこうと秘密、どれだけこの子についての情報を出していいとか、何か校長先生が悩まれてて、難しいところもあったんですけど、なんかせつかくそういうスキルを持った人達もいるので、何か使えないというか連携がですね、できるといいなというふうに思いました。

あと幼保小連携に関してはもう、北郷小と保育所がですね、素晴らしいですね。環境的にも、卒園した子たちが目の前で遊んで、ちょっと手伝ってとか言ったらその子たちが着て椅子を運んでくれるっていう。で、ちょっと学校に行きづらくなった子たちがですね、ちょうど私が行ったときは、北郷中の生徒さんがですね、実習で保育園の子供たちと遊んでたんですよ。なかなか学校に足が向かない子もそういう環境だと、子供たちと一生懸命やってると。昔、教えてもらった先生がまだ保育所にいらっしゃるわけです。さっきのちっちゃい頃からずっと見ていくっていう、そういう関係ですよ。だから幼稚園の頃のあんなにお転婆だったあの子がこんなに今成長して子供たちを見てくれる、っていうんで、関わった大人も嬉しいし、言われる子供もですね、すごく自己肯定感高まるでしょうし、いい環境だなと。ただ、残念ながらね、どこの学校もそういうわけいかないからですね。そこをどうしていくかだと思うんですけど、やっぱりお互い知り合うことがすごく大事なんだろうなって。忙しいですけどね。なかなか忙しい中で時間見つけるの大変なんですけど、週に1回話し合い持ってるそうです、北郷小と北郷中は。週に1回、あの子が気になるとか、どんなふうになったかそういう話ができてればですよ。これはやっぱりね、いろんな目で応援できるんで、羨ましいなと。

【八木委員】

先ほどの橋本市の人が、やっぱり保健師さんとかもずっと変わらなくて、小さいときからずっと見て、やっぱりずっと同じ大人がその子の成長をずっと18までっていうか見守れるっていうことは仰られてたので、そういういいなと思ったんですよ。そういうセンターがすごい自慢ですみたいなかんじで言われてるので。

【佐藤委員】

ただ、どうしても他の学校だとですね、やっぱり来ない子供に対してアプローチするけど、誰の責任かってのはなかなか明確にできないじゃないですか。だからそれぞれがアプローチするけど、そこからこぼれてしまう子がやっぱり一定数いて、そのうちもう誰も声かけないとかですね。学校の方もちょっともう打つ手がないということで、やっぱり忘れられていくような子供さんもあると思うんですよ。だからそういう子が出ないようにですね、何か仕組みができるといいなというふうに思いました。

あと事業所なんかが集まったその発達支援の方なんですけど、いろいろな方がいろんな分析されていてですね。この10年間で子供の数は1割以上減ってると。でも発達障害と言われる子は10倍ぐらいなってる。違う、そこまでないかな。5倍ぐらいになって

るということで、それはなぜなのかと。

1つは認知が進んで、皆さんわかってるんでこれ発達障害じゃないかということで受診が進んでわかるようになったんだらうということもあるんですけど。これはやっぱり生まれつきの特性なんで、そんなに増えるはずはないんですよね。いくら認知が進んだからといって。やっぱり食事とメディアじゃないだらうかっていうのが。はっきりした証拠はなかなかないんですけどね。いろんな講演会の中では、やっぱりそういう食を整えたら症状が軽くなったとか、無農薬とか無添加のものを食べてるとイライラが収まったとか、よく寝るようになったとか、そういうのが変わってきたっていう話も出ましたし。やっぱりメディア依存の子たちが増えていると、そういう発達障害児的な行動が見られるというのが各事業所からもですね、話がありまして。だから、いろんな直接的なケアっていうのも必要なんでしょうけど、そういう体づくりとかですね。そういうところも併せてやっていかないと、今の生活環境ではどんどんどんどんそういった形が増えて、人間はそんなに急に増やせないからですね、追いつかないということになるんじゃないかなあというのはまた心配しました。

うちの幼稚園もなかなか無添加オーガニックの給食となるとですね、やっぱりなかなか食材が確保できなかったり、値段も高く、ただえさえ赤字なもので、なんですけど、添加物を減らすっていうことは割とできるんじゃないかということで今ちょっと、すべての練り物が悪いというわけじゃないでしょうけど、どういうふうに作られたかとかね、加工食品ベーコンとかハムとかですね、なるべく減らして、やってみようかなというふうには思っているつもりです。

【黒木委員】

私の方が12日の南那珂教科書採択地区協議会で朝から夕方まで、各教科、各社の教科書を拝見して、いろんな特徴があるなと思いつつ見させていただいて、ものすごく勉強になりました。教育長もおっしゃったんですけど、教科書はあくまでもツールであるというか、なのでどこの教科書もちゃんとその条件をクリアされて作られてる教科書だったので、そんなに大した差はないんですけど、見やすさであったりとか、もうあと中に入ってる文章物語だったりするものとかのもう個人の感覚というか、そういったもので選ばれていうことになるのかなと思ったんですけど、あそこに先生が誰もいらっしゃらずに本当にフラットな目で見れたっていうのは、よかったんじゃないかなと思いつつ、いろいろ見させていただいたところでした。

次の日が吾田小学校で給食と一緒に食べさせてもらって、先生たちの給食の時間の動きを拝見したんですけど、それぞれ先生たちによって動きが違ったので、もう本当に子供たちは対面ではないんですけど、食に対してちゃんと向き合ってる時間を過ごしてるなっていうので、コロナで対面じゃないからとかマイナスなふうに考えるんじゃなくて、そうやってちゃんと現状と向き合ってるその時間をちゃんと過ごしてる子供たちを評価してあ

げて、食の楽しさっていうのをそこからどう見つけるのかっていうその導きを考えた方がいいのかなっていう、改めてなんかこう、そういう時対面じゃない給食を入れてよかったなって思いました。今までちょっと対面じゃないと、楽しいご飯をとってという感じで考えてたんですけど、1人でしっかり給食苦手なもの、これは嫌いだけど何個チャレンジするって先生に言われながら、2個頑張るって言いながらちゃんとその食べることに對してと味をちゃんと感じながら、食べてるなっていうその時間の過ごし方に、とても意味があるなと思って、宮崎先生の手厚いおもてなしにもう、ありがたいなと思いながら、時間を過ごさせていただきました。

今日が南保塾ちょっと拝見してたんですけど、小さい学年がちょっと見れなかったんですけど、高学年ティッシュケースを作っていて、しっかりしたその材料をちゃんと森林組合の方からそろえていただいている、親御さんも一緒に参加して、もう本当にこれ良い取り組みですよ。日南のね。また来年もそれ以降もずっと続いていくといいなと思いながら見させていただきました。

【都甲教育長】

そう、ティッシュケースびっくりしました。中に入れるティッシュまで用意してくれて。だから持って帰ったらすぐ置いて使えるんですよ。

【八木委員】

すみません。給食活動、私も行ってきたんですけど先生たち食べる時間ないんで気の毒でした。子供たちが食べて配膳全部して、ワーッと食べられて、返さなきゃいけない、もう本当先生たち大変だなって感じました。

【都甲教育長】

あれが染みついて、学校の先生食べる速度早いんですよ。ゆっくり食べられない。黙って食うからさ、会食なんかしても無言になっちゃう。楽しく会話とかできんね。

【八木委員】

楽しく食べるための地産地消もですけど、全国の味めぐりメニューとかあるんですよ。沖縄のものとかね。あれも楽しいですねいろいろ工夫されて。

9 前回の議事録承認

第3回の議事録について了承

10 議題について

議事 1 他市町村教育委員会との意見交換会について

(上村補佐)	他市町村教育委員会との意見交換会について説明。
(都甲教育長)	道路が通りましたので、割と遠出ができるかなということで考えてますので、どっか行ってみたいところ。お願いしたら嫌とは言わないと思います。頑張ります、私が交渉を。
(八木委員)	他市町のその特徴ってのはよくわからないんですけど、そういう何か事務局案で、ここが良いとかないでしょうか。
(都甲教育長)	事務局案ですね。そうですね。私西都の教育長とかとは割と仲良くて、代わったばかりなんですけど、あそこは今度中学校を1つにするじゃないですか。その準備をしてるんですよ、いよいよ。だから、うち、日南もすぐすぐじゃないけども、今後やっぱり子供が減っていったら、学校の統廃合なんか避けて通れないので、ちょっと先の話かもしれんけども、いいのかなとか。 そして、あそこはまた文化財、西都原っていうのを抱えてていろんなこともやってるから、生涯学習の方でもやっぱり何か面白い話を聞けるのかなとか、いうふうな感じは受けます。 例えばご自分でちょっとホームページご覧なってますよ。教育委員会の取り組みとか参考にされてと思いますけど、私は西都って言いましたけど、そこはもうフラットに考えてもらって、ご自分がどっか行ってみたいな、ちょっとそういう場所を見てみたいなってのもいいですから。そこに行ってみたいなって、それでもいいと思うんですけど、こういう教育委員会の遠足みたいな話で、足を延ばして。ちょっと遠いかもしれんけどね、日向の美々津あたりも街並みで良いですよ、やっぱね。ちょっと考えてみていただければと思います。

議事 2 第 81 回国民スポーツ大会・第 26 回全国障害者スポーツ大会について

(谷口室長補佐)	第 81 回国民スポーツ大会・第 26 回全国障害者スポーツ大会についてについて説明。
(佐藤委員)	この障害者スポーツ大会の参加者が少ないというのは、やっぱり

(谷口室長補佐)	これは大会規模が全然違うってことなんですかね。
(佐藤委員)	はい。これは障害者スポーツ大会の開催基準の中です、9 ブロックあるんですね。全国、北海道ブロックとか東北ブロックとか 9 ブロックあるんですけど、そのうちの代表がそれぞれ 1 チームしか来ないようなので、男子と女子ということで、地元枠があるので 10 チーム 10 チームってような参加人数になるようでございます。
(佐藤委員)	発達支援事業所を始めて思うことはですね、やっぱり障害のありなしっていうことが、ものすごくやっぱり保護者の方には大きな問題で、本当はそれなりに、サポートすれば一緒にやっていけるはずなのに、地域の目が厳しかったり。ですから、何かこういう頑張ってる姿をたくさんの人に見ていただくと、またその辺が変わっていくんじゃないかなというふうなのがちょっと思ったので、のぼり旗の件もですね、やっぱりこういう人たちが出る大会なんだっていうのがわかると、作る方もまた気持ちが変わると思うんですよ。だから、地元のチームの方との交流とか、なんかそういうのがあると、よし、じゃああの人たちのために旗作ろうとかですね、それは子供たちもこう出てくるんじゃないかなと思うので、せっかく地元であるからですね。そういった前後の交流とか、なんかそういうのができると良いと思います。
(谷口室長補佐)	ご意見ありがとうございます。各小・中学校にですね、我々の方から出向いてお時間いただいて、国スポはこんなものなんだよ、障害者スポーツ大会はこういう大会なんだよっていう説明っていうか、そういったものを随時やっていこうかなというふうに思っています。そういうことによって PR していくのと、PR 用の例えばクリアファイルとかを作って、それを子供たちに使っていただくとか、そういったのも今後計画をしておりますので、そういった部分でどんどん子供たちにも PR をして行って、1 人でも多く関わっていただくようなですね、取り組みを進めて参りたいというふうに思っております。
(佐藤委員)	一緒にこの競技を体験するとかですね。良いんじゃないかなと思いました。ありがとうございます。
(都甲教育長)	前回の国体の時にそういうことやっちゃったっचारうか。
(谷口室長補佐)	はい。僕も当然っちゃいですので、当時の映像とかを見ると何かいろいろとやってるようですね。それこそうちの井上係長も炬火ランナーとして走ったとか。ちょっと 60 前後ぐらいの人たちはその高校生で総合開会式の時に踊って出たとか。そういう話とかは聞い

(都甲教育長) (鬼束部長) (都甲教育長)	ております。 ちょうど部長もそういうガッツリの歳じゃないですか。 私は自転車を漕いで見学に行っただけでしたね。
	この前のときは台風が来て、高校野球なんか４校優勝だったからですよ。台風が来てなかなか競技ができなかったのがありました。ぜひ本当、事前に学校に入って、またいろいろ教えてもらおうといいかなと思います。今はね、50年に１回だけど。いろいろこう、国スポどうしようかって話になってるから、50年とかじゃないかもしれないし、今度来るのは。子供たちが生きているうちにもう一回来るかわからない。そういう問題が出るかもしれんから、なおさらしつかり。
(八木委員) (都甲教育長)	宿泊だけですごい人ですからね。 宿泊場所とか一生懸命来ん考えていかんとですよ。その運搬とかですね。まだまだ暑い時期なので、その暑さ対策とかですよ。やるのがたくさんあって、大変ですよ。準備の方がね。

1 1 報告について

報告 1 市議会定例会報告（6月議会）について

(鬼束部長) (都甲教育長)	市議会定例会報告（6月議会）について説明。 以上のようなことを聞かれて答えたわけですけど、何かもうちょっと聞いてみたいところとかありますか。
(黒木委員) (都甲教育長)	神楽をやってるのは北郷と榎原ですね。あと１つは神社がメジャーなところです。鵜戸ですね。 これはですね、子供たちが総合的な学習の時間で調査するんです。いろんなことを調べて、その中で選んだんです。だから、選ぶだけの題材がやっぱあるわけですね、その３つは。有名な神社を持ってるわけですね。この坂本議員はどこもやっちゃらんちゃんないかという感じで聞かれたんですよ。
(八木委員) (都甲教育長)	水泳が10時間程度の指導とあったけど、気温が高いときはプールはできないんですよ。今年どのぐらい実施できたのかなと。 調査はしてないんですけど、暑すぎる場合とか、雷とかあるんですけど。ある学校に聞いたら、やっぱりちょっと見る人を増やして、ちゃんと水筒を持たせてやったというのがあって、なかなか大事な10時間なので、できるだけやるようにですね。その学校に聞いたら

	プールの水温が 32 度とか言ってまして、すごい温度ですね。もちろん水を出してるんですけどね、もうなかなか間に合いませんよね。
(八木委員)	あと運動会ですけど、午前中にアンケートして、もうお弁当なしがいいというあれ、やっぱり 50%過半数超えてたんでしょうか。
(都甲教育長)	アンケートは学校独自でやってるんですよ。だから全体でやってないですよ。これ我々がやるもんじゃないと思うんですよ。
(八木委員)	学校の考えで 1 日やるって言うのであれば、やる学校もあるってことですね。
(都甲教育長)	ただですね、やっぱり小さい学校はまだ多いんじゃないかっていう話もあるわけですよ。もう子供の数が減ってるから。もっと減らしていいんじゃないかと。だからもしかしたらもう、例えば午前中きゅっともう詰めて、もうあとはもう後からまた授業とかですよ。そういうことも出てくるかもしれないですよ。
(八木委員)	幼稚園とかもないですか。
(佐藤委員)	幼稚園はもう 0 歳児からいるからですね。そんな長くはちょっと引っ張れないですね。大体午前中で終わりなんですけど。
(八木委員)	なんかちょっと高千穂で言ったら驚かれて、ちゃんとお弁当作って、あそこが一番楽しいのになって。いろんな子供の情報も入るし、親同士もおしゃべりが楽しいのにないんですかって言われて、びっくりした。だから何かまた機会があればアンケートをとって、そこがとても大切なところなので。情報共有にもなって、学校のことがわかったり、子供とかいろんな方と繋がって PTA 活動が盛んになってたので、ちょっともったいないなと思うんですね。
(都甲教育長)	小学校の親御さんが、コロナが流行ってもう 1 年生が 4 年生ぐらいになってるわけですよ。このままいったら、もう午前中が定着するかもしれません。
(八木委員)	そうなると思うんです。多分全国的にそうだと思うんですけど、それでなんかいいのかなというか。
(黒木委員)	学校の規模にもよって多分、うん。小さい学校が午後までってなると、子供たちずっと出っ放しだったり、地域の方とか保護者の競技も入れないと難しいとかなるとちょっと大変かなって。
(八木委員)	ひと昔はそれが楽しかったのかと。高千穂とかも、公民館主体になんか子育てを今でもしてるので。
(黒木委員)	地域性もあるのかもしれないですね。
(都甲教育長)	今回やっぱり親御さんから聞いた話では、弁当がなくなってよかった。場所を取らなくてよかった。特に吾田小なんかもすごかつ

	たからですね。ぶわーって人がいて、どうそれをしていこうかって。奉仕作業に来た人に優先権を与えとか、あと吾田中も朝 6 時にもうみんなね、待ってますよね。
(黒木委員)	だから多分運動会が終わった後とかに、午前中開催がよかったとかそういったアンケートは多分とってるよね。
(別府委員)	東小もちゃんと保護者にアンケート取った上で、保護者からの意見の方がやっぱり午前中の方がいいという声がおっきいみたいですね。
(都甲教育長)	学校はですね、毎年終わった後にいろんな、それも含めて、意見を聞くので、その中でやってるので。実際この児玉議員も教育委員会でアンケートはとらんとかって話もあったんですけど、いやそれはもううちをとるもんじゃないとして、学校に任せるというふうになったんですよね。
(佐藤委員)	繋がりは大事だと思うんですよね。だから、今の皆さんにあった形を探っていくのがいいのかもしれないですね。
(都甲教育長)	あとは別のものをですね。今度はね、別のもの。それこそ今はこういう時代なので、先生たちとか保護者とか、子供たちも負担にならないような、そういう何か繋がるようなものをやるとか。
(黒木委員)	細田地区は細田地区の何か運動会みたいな、玉入れ大会みたいなのが、別にあって。それはもう自由参加で回覧板で回ってきたりとかして、そこはもう年齢とかも関係ないので、学校でっていう縛りがなく地域でってなるとまた自由に楽しめるから。
(都甲教育長)	そうですね。
(別府委員)	吾田まちづくりでもやってるのが、やっぱ PTA のそのイベントとかがなくなったんで、それをまちづくりが担おうよっていう形で、そこに子供たちが参加できるようにってことで、コミュニティつくればいいなというのが。だから今度 10 月にエリア 26 ってまちづくりをするんですけど、その司会進行を吾田中学校の生徒さんに任す予定もあります。そういった地域を巻き込んだ形の何かやり方っていうのが良いかもしれないですね。
(都甲教育長)	そうですね。やっぱりそうやっていただけると、またその子たちも後々今度は地域のためにね、やりたいってなるから。
(黒木委員)	学校が主体ってなってしまうと、もう PTA 問題でそういう、強制じゃないのにみたいな、まだ先生たちの働き方改革っていうのもあるので、地域でやろうっていう人がこうやっていく、主体になっていくことの方が盛り上がるんじゃないかなっていうふうにはね。

(都甲教育長)	そして軌道に乗れば長続きをしますとですね、そこはね。 学校運営協議会っていうね、制度があって、地域の方に入ってもらって、学校のいろんなことやってますので。そういう中でやっぱりどんどん意見を交換してもらってやるのもいいのかなあと。 今おっしゃったように、ちょっともう学校じゃできないものがあるから地域はどうですかと。大体自治会長さん入ってもらってるから。なんかね、そういう変わるものができればなあって。
(黒木委員)	実際本当自分たちの子供のときの学校の行事と、自分で実際子育てで、小学校中学校でコロナもその間にあったので、そこですごくもう変わってきたなっていうのを感じた子育て期間だったので。これからやっぱり子供の数も減ったので、学校でやるって言っても本当子供たちの人数も少な過ぎて、地域でっていう交流が持てると、子供たちもいろんな地域の子と交流できるかと。学校だけって本当に少ないので、少ない学校の子もいろんな学校の子と交流できたりする場が地域同士の交流会になっていくと、また昔みたいな楽しい催し物とかも盛り上がるのかなと。
(都甲教育長)	まあ、なかなかその地域の方にね、それをまたやっていただくのは大変なんですけど。ただそうなった時にはやっぱり学校の職員も地域の協力者と。地域の協力者として知らんぷりはできんと思うんですよ。校長はじめですね、学校職員はやっぱ協力して、その盛り上げのためにやっぱりやるってことは大事ですよ。

12 その他

(1) 8月行事予定について

(2) ふれあいコミュニケーション

- ① 日時 令和6年8月22日(木) 午後1時20分から
- ② 場所 日南市役所・別館2階会議室5

(3) 総合教育会議

- ① 日時 令和6年8月22日(木) 午後2時30分から
- ② 場所 日南市役所・別館2階会議室7

(4) 第6回 教育委員会会議(定例)

- ① 日時 令和6年8月22日(木) 午後4時から
- ② 場所 日南市役所・別館2階会議室5

(5) その他

【黒木委員】

今月 30 日のこども議会っていうのは、あれは一般の方も傍聴できるような感じなんですか。保護者はいらっしゃると聞いていますが。引率の先生と。

【都甲教育長】

オープンにはしてるんですよ。ただ議場なので、ちょっと人数的には厳しいかもしれないです。傍聴席に椅子はあるけど、もしもの時にはもうパイプ椅子とか入れて、来た人はできるだけ入ってもらう。

ただ子供たちが 20 何人来るので、保護者が 1 名来てもそれだけでもう 20 何人。で先生もおられれば、だからそれだけでも 40 何人なので、大体それを考えれば 50 人ぐらいはやっぱり、うん。傍聴みたいな感じになると思うので、できるだけ入ってもらうように、はい。

【鬼東部長】

あと会議室にモニターをつけて、そこで見ていただくと良いかと。

【都甲教育長】

今年はですね、議長ももう中学生がやると。隣に部長が座ると。議会事務局の経験者です。部長がその辺でいろいろアドバイスをして、子供たちにやってもらいたいなと。もう議長さんも快くやっていいよって仰ってくれたもんですから、今年からやろうと思うんですよ。

ところが質問がですね、教育関係全くなくて。市長だけなんです。だから市長に申し訳なくてですよ。僕最後にちょっと偉そうに公表するだけです。だから市長がもう全部答えるんですよ。

【八木委員】

去年は同じ質問が多かったけど、今年も一緒ですか。

【都甲教育長】

どうしても傾向はそうなるんですけど、でも割と今回ばらけて、ちょっと話すると、災害とかですね、あれどうなってんのかとか、あとは地域活性とか、やっぱり子供たちなりに考えてるんだなあというのがありました。

【黒木委員】

毎年思うんですけど、ぜひ議員さんとかに聞きに来てもらいたいなってすごく。日

南市の将来を子供なりに心配してますよね。だから良い刺激になるんじゃないかと。

【都甲教育長】

勉強熱心な生徒さんお見えになって、しっかりやっています。ぜひ楽しみてください。

【佐藤委員】

残念ながら行けないんですけど、出張で。そういう課題を見つける力が、やっぱ素晴らしいことなので、よくぞ気づいたというような感じで、そういうお褒めの言葉をたくさん市長から。お金がないとか、それはしょうがないところもあるんですけど。よく気づいたねっていうそこをですね、いっぱいほめていただけると。

【都甲教育長】

やっぱ各課もですね、真剣に考えてくれて、真剣に考えるばかりに、そのためにやっぱりそういう答弁になる場合もあったんですよ。だからそこら辺は副市長がちゃんと言ってくれて、わかる言葉でしっかり答えるように、アドバイスしてくれています。

13 閉会